

HAND IN HAND

はんど いん はんど

離別母子家庭は国からも差別されている

☑ 3ヶ月ぶりに開いたニコニコ離婚講座は大盛況でした。一部の再就職の訪に聞かせる顔は真剣そのもので、終つてか法講師の人を囲んで質問が次々とびだしました。

☑ 共働きの人ほともかく、離婚すれば即、生活に困る人が大部分です、財産分与も慰謝料も、子どもの養育費すらあてにはできません。生計を立てる方策をとらねばなりません。再就職には長年の結婚生活がハンデキャップとなるし、年齢制限はあるしで、厳しい道が待っています。我が国の男女の平均賃金は男子10に対し、女子5.3と差があり、当然母子家庭の生活水準も低く、一般世帯の年収418万7,000円に対し、249万0,000円。(昭和55年の国民生活実態調査から広島市が推定したもの)。なかでも死別家庭より離別家庭のほうがさらに低いといわれています。

☑ 過日、厚生省の年金局年金課に母子年金のことで問い合わせました。「妻が国民年金に入っていて夫と離婚した時は？」「離婚では母子年金は受けられません。どうしてでしょう。」「一家の大黒柱と収入を失った死別の場合だけです。」「離別でも大黒柱と収入を失いますが。」「いや、離婚は失うことになりません。勝手に離婚するんだから。」

☑ 離別母子家庭に対する差別は、他にも多々存在します。世帯の人々の離婚に対する偏見もさることながら、こうした国の差別をとり払っていかないと、離別家庭の貧困はなくなる気がしません。
1982.9.1. 丹より子

逐次刊行物

13.2.14

国立女性教育会館

19

土日がこわい

離婚した男

結婚して15年目、仕事も軌道にのり、二人の子供たちも名門といわれる学校にすすみ、順調な毎日を送っていたころ、仕事で3週間の海外出張を終えて帰宅すると、迎えてくれるはずの妻と子供が家にはいません。探しましたが、行方ばかりありません。

それから数日して、妻から連絡が入りました。「とうあなたとはやっけない。ずい分前から考えていたけれど、いっしょにいるのが、いやになった。」として、「別れてくれ。」と言うのです。寝耳に水でした。妻に愛人でもできたのかと疑い、興信所に調査を依頼しましたが、何とありませんでした。しあわせで順調だと思っていたくらいの中で、妻が離婚を考えていたことを、いくら考えても納得が

いきません。私は、給料はきちんとしていたし、夜おそく帰るのは、仕事のせいだし、とちうんキャンブルもしません。

「責任と理由とすべて私の方にあるから。」と言ひ、「冷めちゃったの。」いっしょに暮らしたくない。」と言ひ、妻。子供に未練はありませんが、どうしようもありません。どうしてもいっしょにやっけないと、外に出て行ってしまった人間と、再び結婚生活をしようと考へ、妻の気持ちを理解することなく、離婚しました。

海外出張から帰った日から、突然に、全く違う人生になってしまったようです。ひとりになってから、土日がこわくなりました。商社に勤める40才の男性から、二人の子供は妻のとへ。

★「妻の方から離婚を迫られる男性が、私の身辺には、けっくう大勢います。でも、離婚した後

でさえ、「なぜ彼女が別れたいと言ったのかわからない」という相談に、よくつきあいます。愛した女にホッペタをたたかれて、それからはじめて、妻のことを理解しようとする男性は、結局、何とわからないみたい。」

(32才。ワオと4才の母親。)

★「30年、がまんにがまんと重ねて夫とは、どうしてとやっけないと見切りをつけ、出張中に別居をしました。夫は、鈍感な人で、調停中にも、私の言い分を全く理解しませんでした。あの鈍感さが、たまりませんでした。(58才。子供は独立。離婚。)

手紙から

★静岡県磐田郡

毎回いろいろな記事を楽しみにしています。ただ、職業も恵まれているし、養育費も、少額でも、どうあるという、同じ母子家庭で、中

流の上くらいの方々の意見が多いように思います。」

★茨城県

「私は結婚し、都会生活を10年しました。離婚の為、いなかの町工場で働くようになりました。職場の同僚には、住まいの近い、半農の主婦たちが多く、彼女たちだけのサークルができていて、私は孤立しがちです。母子向けの住宅に住み生活の為に朝早くから夕方まで働いているので、近所の人と顔を合わせることもなく、テレビを見る時間もないので、話題に乏しいからでしょうか。孤独です。機関紙の届くのだけが楽しみになっています。」

★中野区

「18号のはんどいんはんどに、子供を持たない離婚女性の会合」をよびかけたら、中止になったとあり、残念に思いました。私は以前は、はんどいんはんど、ジュニアグループの会合に参加しましたが、ちんくらしい

しか集まらなくて、私以外は、全員子供のいる人で、けなげにがんばっているというよりも、何か気が強くて、これだから夫に逃がられてしまうのではないかと、思われる人達ばかりで、あまり感じがよくなくて、その後は、会合に出席するのをやめてしまいました。」

編集人から一言

はんどいんはんどの会合に出席するのは、ほとんどが、子供を持つ婦人です。中には、「離婚は仕方ない。でも、女は、子供を持たなくては、一人前ではない。」という意見の方がいます。子供がいないと話す時、ボーイフレンドがいるのだろう、とか、いろんなこと、かできるでしょう、と言われるし、なんで再婚しないの、とか、ふしぎがられたりしてしまいます。また、子供がいるから、こそ、がんばらねば、と、いっしょにつけんめいになると、「気が強い」とか、

「あれだから……」と、言われたりしてしまおうようです。ナニナニだから、こうあるべき、というものの見方は、なるだけしない方が、せうし、気楽にやっつけていけると、思うのですが……。

大阪はんどいんはんどの会

★大阪の、はんどいんはんどの会は、9月26日、日曜日、午後から、会員、田中さん宅で行ないます。参加は、女性に限ります。

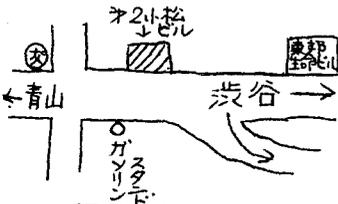
購読料のお知らせ

18号でお知らせした結果、一部の方々から、購読料を送っていただきました。購読料が切れども、通知できないこと、お詫を申し上げます。

第36回 ニコニコ離婚講座のお知らせ

〔期日〕9月30日(木) 午後1時半～4時 〔受講料〕1,000円
 〔会場〕渋谷区渋谷2-14-17 第2小松ビル3F

渋谷駅から、東邦生命ビル(高層ビル)をめざす。そこから、
 10mくらい青山寄り。



〔講座内容〕1部『離別家庭と福祉の現況』
 円より子
 2部『離婚に必要な法律と手続き、質疑応答』
 金住典子弁護士

“HAND・I・N・HANDの会”へのおさそい

★第16回はんどいんはんどの会

〔日時〕9月16日(木)PM6:30～8:00

〔場所〕新大寺町ビル一階

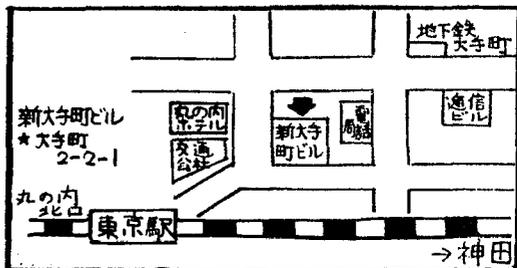
『サンパティック・サロン』

〔会費〕1000円

〔申し込み〕TEL.402-7354(土日休)

〔テーマ〕“性”のこと。

★定員10名 先着順。お断りする方もに苦しいのですが、スペースの関係なのです。



—結婚を選ばなかった私たちの生と性—

『シングル・マザー』池上千寿子 編著

学陽書房
 ¥1200

未婚の母たちを通して、生と性がハンディどころか、すばらしい力を秘めていることを、おしえてくれる。未婚の母たちの手記と、

法律や福祉の情報やドッキング。子供が小さいなら、「子供に(状況を)どう伝えたらいいか。男性不信になりはしないか。」これは、単親家庭の共通の悩みであるらしい。

編集後記 限られたスペースで、たくさんのお話を書こうとすると、

つい字が小さくなってしまいます。今回は、いつもより大きな字で書いてみました。

このリーフレットは、離婚・別居中・死別・未婚・結婚と、いろいろな方が多くとります。

編集人(平沢)の独断で記事を構成してきょうので、おもしろくない、と思うことも、あるでしょう。それだからこそ、毎度つこいよ

うですが、みなさまからの、お便りをお待ちしております。年令もかいていただけると、なお、うれしいのです。あて先は下記住所まで。

★購読料は、半年1000円、一年2000円。切手の申し込みは、さげ下さい。

購読料が、切れたか、どうか心西にな方は、おハガキ下さい。(TELも可。)

▼1982年9月1日
 オフィス・ヨリック発行

▼発行人・円より子 ▼編集・平沢三

〒150

東京都渋谷区神宮前3-33-2
 原宿ハイム202 オフィス・ヨリック